

脱毛症外来

1. スタッフ

寄附講座教授 板見 智
その他、寄附講座助教 1名

2. 診療内容

重症の円形脱毛症を代表とする脱毛症は生命を脅かすことはないが、そのひとの人生や生活を変えてしまう疾患である(米国円形脱毛症患者会の言葉:Alopecia areata is not a life-threatening disease but life-altering disease.)。男性型脱毛症や円形脱毛症、症候性の脱毛症等の脱毛症で悩んでいる人々は多く、その悩みは深い。生命予後に關わらないからと言って決して軽症疾患として片づけてはいけない疾患群である。治療法は限られているものの、それだけに個々の症例によって治療法の工夫が必要となる。

平成 28 年には当専門外来が策定に中心的役割を果たした男性型脱毛症診療ガイドラインおよび円形脱毛症診療ガイドラインによりエビデンスに基づいた診療指針が標準化された。

当専門外来では、個々に悩みを抱えた患者に寄り添い、エビデンスに基づいた治療を心掛けている。急性悪化型円形脱毛症に対してはステロイドミニパルス療法を行っている。この治療は、入院の上実施しているが、本院のみならず、国立病院機構大阪医療センター、市立池田病院とも連携し、迅速な入院加療体制を整備している。慢性期においてはステロイド外用、ステロイド局注、局所免疫療法、抗アレルギー剤内服などをに行っている。

また膠原病や甲状腺疾患を含めた内分泌疾患など内科疾患に伴う脱毛症状にも対応している。紹介患者は近畿圏のみならず全国から来院している。男性型脱毛症など頻度の高い脱毛症やその他の頻度の低い稀な脱毛症の診療もエビデンスに基づいた正確な診断と治療を心掛けている。世界に先駆けて脱毛症診療にトリコスコピーを導入し、標準的な診断手法として診療に用いている。

3. 診療体制

原則、当専門外来は保険医療福祉ネットワーク部を介した紹介患者のみの診療で、毎週水曜日の午後に、平成 30 年 1 月まで 2 診療体制、同年 2 月より 3 診療体制で日本皮膚科学会皮膚科専門医による診察を行っている。皮膚科一般外来初診の場合は専門外来予約の上での受診となる。

4. 診療実績

平成 29 年度は初診患者が 157 名で、そのうち紹介患者は 152 名（紹介率 96.8%）であった。

5. その他

現在、日本皮膚科学会による男性型脱毛症診療ガイドライン、円形脱毛症診療ガイドラインの改定作業を行っている。また診療外ではあるが、ウィッグ購入における患者負担の軽減に向けての医療用ウィッグの JIS 規格化など社会活動を行っている。

日本皮膚科学会皮膚科専門医

平成 29 年 4 月～平成 30 年 1 月	2 名
平成 30 年 2 月～	3 名